

J R山陽本線等倉敷駅付近連続立体交差事業について

連続立体交差事業については、県・倉敷市・J R西日本(株)の三者で協議を行っているが、再評価の一環として、コスト縮減や工法変更等の方策について、J R西日本に委託して検討を行った結果の概要について報告する。

1 検討結果の概要

J R西日本が行った高架化区間の縮減や施工方法の変更等についての検討結果を受けて、平成24年度に公表した全体事業費609億円における工事費をもとに、高架構造物及び仮線に係る工事費の縮減想定額を、県が概略値として試算した。

なお、今回の縮減想定額は、概略での把握が可能な高架構造物及び仮線の工事のみを対象としており、詳細な検討が必要な建築工事や電気等の設備関係工事、用地補償等については、対象としていない。

	検討項目	検討内容及び結果	縮減 想定額 (県試算)
山陽 本線	① 高架化区間の縮減の検討 (駅より西側)	・鉄道と主要交差道路とを連続立体交差化する範囲の検討 [現計画：(都) 大内老松線まで 事業区間約3.2km] 検討案：(仮) 駅北2号線まで 事業区間約2.8km	△約400m 約25億円
	② 線路の配線計画の検討 (駅より東側)	・現在と同等の列車運行ダイヤを維持した上で線路の配線の集約化を検討 [現計画：4線] 検討案：3線	△1線
	③ 施工方法の検討 (全体)	・仮線から高架化された線路への切換の施工方法を検討 [現計画：一括施工方式(切換を一括して施工)] 検討案：分割施工方式(切換を分割して施工) ・仮線に必要な用地面積は縮減されるが、事業期間は相対的に長くなるのが想定 [現計画：仮線に必要な用地面積約6,000m ² 事業期間約15年] 検討案：仮線に必要な用地面積約1,300m ² (注1) 事業期間約18年	用地面積 △約4,700m ² 事業期間 +約3年
伯備 線	④ 高架化区間の縮減の検討	・鉄道と主要交差道路とを連続立体交差化する範囲の検討 [現計画：市道酒津浜町線(富久踏切)まで 事業区間約2.2km] 検討案①：市道酒津浜町線(富久踏切)まで [高さ制限あり(注2)] 事業区間約2.1km 検討案②：(都) 寿町八王寺線まで 事業区間約1.6km 検討案③：(仮) 駅北2号線まで 事業区間約1.4km	△約100m △約520m △約750m 約10億円 約24億円 約36億円

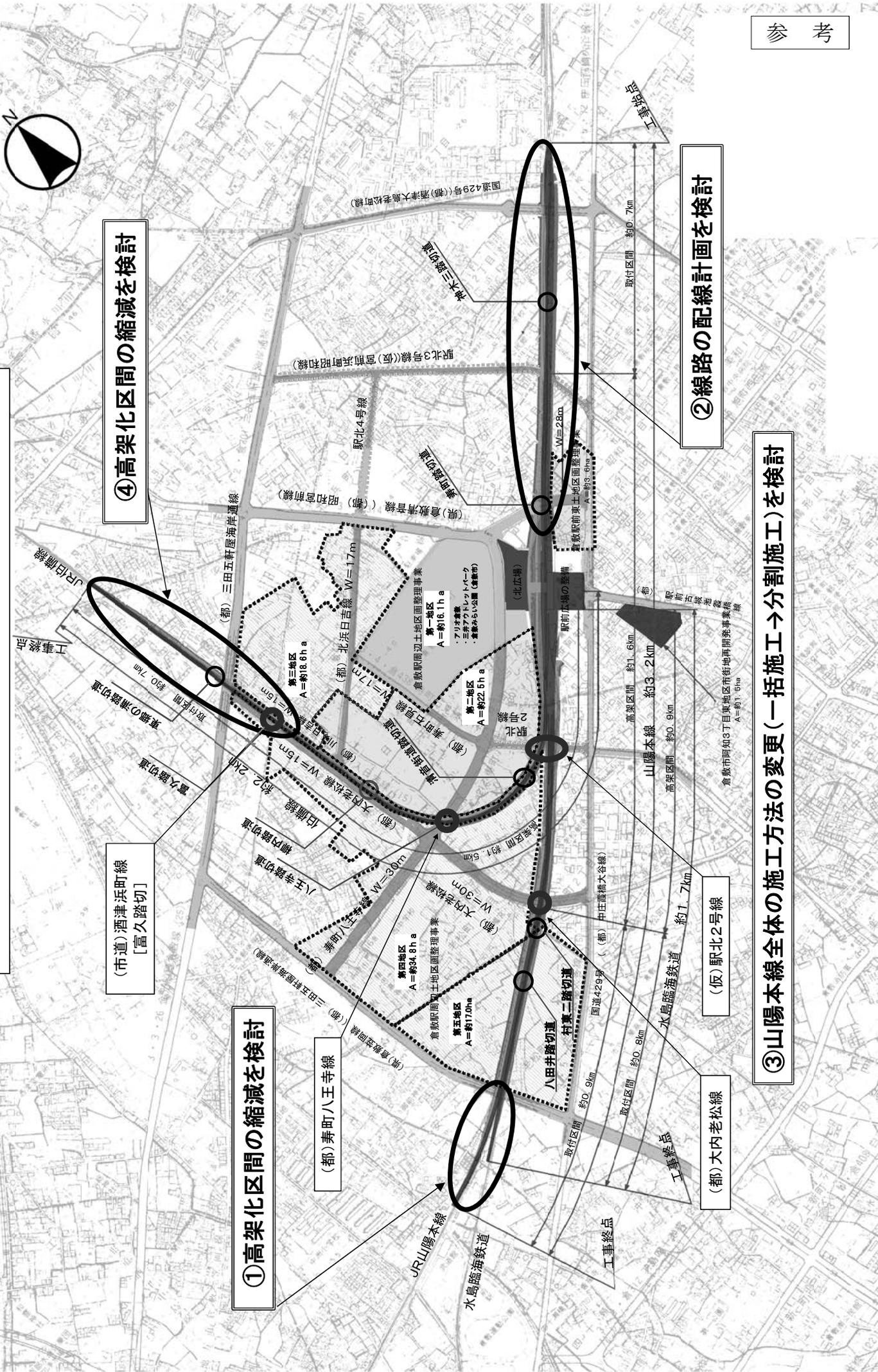
(注1) 山陽本線の高架化区間の縮減と線路の配線の集約化を行った場合

(注2) 普通自動車までが通行可能な3.2mの高さ(通常の道路は4.7m)

2 今後の進め方

今回の検討結果に付随して、水島臨海鉄道についても検討が必要であり、今後、水島臨海鉄道(株)に委託して検討を行うとともに、倉敷市が行っているまちづくり計画の見直しも勘案しながら、引き続き、あらゆる方策について多角的な検討を行う。

JR山陽本線等倉敷駅付近連続立体交差事業 (JR西日本による検討結果概要図)



④高架化区間の縮減を検討

②線路の配線計画を検討

③山陽本線全体の施工方法の変更(一括施工→分割施工)を検討

①高架化区間の縮減を検討

(市道)酒津浜町線
[富久踏切]

(都)寿町八王寺線

(仮)駅北2号線

(都)大内老松線